

AMG

MANUFACTURE

●ドライ用

新発売

汗抜き洗剤
FOR DRY-CLEANING

かん せん おろ
乾洗王

夏の汗ジミ・水汚れもドライでバッチ洗い

Wウオッシュ(ドライ+水洗い)するなら 1回洗いでOK

■ サラッとすっきり、水洗並みの汗抜きドライ。

汗ジミの成分「塩分」は「水」なしでは取れません。

しかし、只の水をソープと混ぜてドライに入れたのでは、シワや縮み、色泣き・型くずれ等が起きてしまいます。

不安定な水分の作用は、かえって衣類がベトついたり、液が汚れてフィルター的使用寿命が短くなってしまいます。

乾洗王は、有馬義の水と油の新技术を駆使してドライの中で安定した水分の利用を可能にしました。また水の中に、水洗で使われている洗剤を配合した結果、洗浄力が一段と向上しました。水洗並みのサラッとした洗い上がりと水溶性の高い洗浄力が特徴です。

■ 汗抜き洗いは、ドライでバッチリ能率アップ。

夏物の汗抜きには、これまでの水洗・ウエット洗いが常識と言われてきました。また最近では、水洗+ドライのWウオッシュ(2回洗い)も出現して、大変手間のかかる洗い方になってきました。

しかし、「水」に落とすとやはり「乾燥」と「仕上げ」に時間と手間がかかり、能率が落ちてしまいます。

ドライの特徴を生かし、乾洗王を1回添加するだけで汗ジミや水汚れがドライでスッキリ洗い上がるようになってきました。

■ いまスグに、お手軽に、便利に使えます。

最初のバッチ洗いの時にワッシャーに乾洗王を入れるだけです。ソープはそのまま使って洗っていただくだけの簡単な使い方でドライでも汗抜きクリーニングができるようになりました。

特 徴

ドライクリーニングでの「水溶性汚れの除去」という観点からみますと国内国外のク研究機関の発表では「ドライ機内の溶剤の相対湿度が70~75%」の時に除去率ピークであると推奨しています。

この乾洗王の洗浄システムは、バッチ洗いの時にバッチ溶剤中の溶剤相対湿度を75%に達成して水溶性の汚れに対する洗浄力をピークに持ってゆこうとする洗浄方式です。

乾洗王は、水分だけではなく、水の中に水洗用の洗剤（中性）も入れて洗うというこれまでのドライ洗浄では考えられなかった画期的な洗浄方法を可能にしました。

有馬義では今後、溶剤相対湿度計の開発設置を通して自動でドライ機中の洗浄コントロールを目視、計数管理する方法の研究もすすめています。

使 用 法

汗ジミ・エリソデ汚れのきつい衣類の洗い方

予洗・バッチ洗いの時にワッシャー内に乾洗王の原液を投入します。

◇使用量はワッシャー内容剤量の0.5~1.0%

(例) 10kgのドライ機 …………… 200cc
20kgのドライ機 …………… 400cc

◇洗浄時間

石油ドライ …………… バッチ洗い5~10分、フィルター循環3~5分

パークドライ …………… バッチ洗い3~7分、フィルター循環3~5分

デリケートな衣類の洗い方

◇エリ・ソデ・前身ポケットの汚れた部分に乾洗王の原液をスプレーして塗りつける。
5~10分静置後、ドライクリーニング

◇洗浄時間

石油ドライ …………… バッチ洗いなし、フィルター循環5分

ササラ処理する洗い方

◇乾洗王の原液をシミ・汚れの部分に塗布した後、石油溶剤でササラ洗いして、ドライ機で濯ぎます。

注 意

- ◇石油ドライ機の中には規定量のソープを入れて洗って下さい。
- ◇パークドライ機の場合は、予洗バッチ後の洗浄液は蒸留して下さい。
- ◇気温の変化により白濁した場合には振って使って下さい。
- ◇夏場の湿度の多い時や冬場の冷温結露の時等、石油ドライ機のベースタンクの底に過剰水分が溜まる時があります。この場合にはベースタンクをかきまぜてフィルター循環するか、水分吸着剤をベースタンクに入れて過剰水分の除去を行って下さい。
- ◇乾洗王（汗抜きドライ）を連続運転した時に一時的に溶剤中の水分濃度が高くなる場合があります。この時には、毛布やタオルケット類を洗って溶剤中（石油・パーク共）の水分を除去して下さい。
- ◇溶剤が白濁した状態で洗うと、シワや縮み、色泣き等トラブルの原因になります。
- ◇フィルター・スラッジ等のドライ用廃棄物は法定の産業廃棄物処理が必要です。

性 状 ・ 荷 姿

- ・ 中性 非イオン系界面活性剤主成分
- ・ 石油ドライ用 16ℓ NET 石油缶入り
- ・ パークドライ用 15kg NET 石油缶入り